

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町72-1		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年2月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご本人様、ご家族様が安心して過ごせる居心地のよい場所作りになるように取り組んでいます。ご本人様、ご家族様とお過ごしいただける時間を大切にしています。ご本人様、ご家族様のご要望にお応えし、行事、外出支援等を通して一緒にお過ごしいただいています。職員はご家族様にお越しいただきやすい雰囲気作りに努めています。職員一人ひとりが、ご本人様、また、ご家族様と来所時や受診時にお話しさせていただいたり、ご様子を手紙でお伝えしたり、電話で連絡を取らせてさせていただいたりして、信頼関係の構築へ取り組んでいます。また、入居者様同士、ご家族様同士の交流の機会を設けて、馴染みの関係作りに努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者や職員は利用者本位の支援に努め、「誰もが居心地よく笑顔がたくさん見られる場所になるように」と「利用者が嬉しい事、やりたい事」を引き出し、「毎日ビールを飲みたい」「家事仕事を続けたい」などの思いを共有して介護計画にあげ支援している。地域の名所や水郷際、魚釣りや外食など家族の協力も得て取り組み、地域の人から柿の収穫や吊るし柿作りの声掛けをして貰うなど良い関係を築き、自然に触れ五感を大切にされた支援に努めている。法人の催しでは地域の人や法人内の事業所の利用者や職員と交流し楽しみに繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の構築について職員に伝え、新たな理念をあげた。誰の為の支援かということを常に伝えている。職員事務所内に事務所理念をかかげ、夜勤から日勤にかわる時間に申し送りの後で、勤務の職員全員で唱和している。	利用者に「その人らしい生活をしてもらえるように」全職員で話し合い、新たな理念をあげ日々唱和を行っている。利用者の表情や言葉に寄り添って本人本位の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、市職員、民生委員の方々にお越しいただいたりしている。外出したりもしている。お便りも配布している。ボランティアの要請をお願いしたり、馴染みのある方にお越しいただいたりしている。近隣への買い物、外出で交流がもてるようにしている。近隣の方には以前に比べて知っていたりしているのではないかと感じる。	毎月の便りを地域の公民館や喫茶店などに配布したり、法人や事業所の催しに参加協力を得て交流が深まっている。新たにボランティアによる陶芸教室が増え利用者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での活動はできていない。認知症対応型デイサービスがあるので、双方のよいところをあげ、メリットがあることは伝えている。以前より事業所を知っていたりしているように感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会を開催し上半期と下半期では事故報告、ひやりはつこの件数、内容などもお伝えし、毎日の活動の様子などを写真で見ただけのように、アルバムも作って見ただけにしている。ご家族様にもたくさん参加していただけた。その中で率直な思いもお話いただき、職員間で振り返り、見直すことができた。	事業所の取り組みや利用者の状況を伝え、参加者からノロウイルスの情報などを得て意見交換の場となっている。会議の後に利用者手作りのどら焼きを一緒に食べるなど交流している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密には連絡を取っていないが、何かあった際には尋ねたり、話がしやすい環境である。わからないことがあれば、すぐに連絡させていただいている。運営推進会議もあるので、顔見知りにもなり話しやすい環境である。	主に運営推進会議で実情を伝え関係を築くよう取り組んでいる。災害避難時の助言や報道される施設に関わる事件に関連して防犯対策の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修での外部講師、内部講師による勉強会は年1回ずつは必ず開催されている。身体拘束、虐待防止委員会もあり、各部署の防止への取り組みや進捗状況など報告し合っている。基本的に職員の一人体制以外は施錠は行っていない。スピーチロックが一番多いと感じられ、その都度職員間で伝え合ったり、勉強会でも話している。	法人全体の研修や事業所内で勉強会を行い具体的に理解している。身体拘束をしないために利用者の立場になりどうしたら良いのか話し合いを重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロック等、職員間で気付いた時に指摘しあう等、日常化しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては全体研修での学びであった。主に虐待防止法についての学びが多かった。これについては、演習を含めた勉強会ができたと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	こちらの伝えることだけでなく、まずは相手の方の思いを汲み取るように心がけた。最初の説明だけで理解、納得されたかはわからないので、その後も話の中でお聴きし、説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や報告書は一つの交流の場となっている。また、家族会も年に2回開催させていただき、バーベキューや忘年会の食事会を兼ねて行った。ご家族様同士で交流されたり、他の入居者様や職員と話をされる機会となっている。	家族や親戚の面会が多く、様子を伝え要望を聞いている。毎月たよりを発行し日頃の様子を写真やコメントで伝えている。年2回の家族会でバーベキューや忘年会など企画し交流している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際や個人面接を行ったりしている。出来るだけ個々での話を伺うようにはしているが、時間が足りないのが現状である。	管理者は日頃から職員に声掛けをして意見を聞く機会を設けている。情報を共有できるように記録の仕方を変えるなど、職員の意見を改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれ得意とされることを活かしていただくとは思いますが、活かされる場合とそうでない場合がある。やりがいのあるようにしていくには、さらに工夫が必要であると思う現状がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門職としてさらに知識を得ていただくよう研修への参加の声かけを行い、参加していただいている。特に認知症についての研修への参加を促している。今後も力を入れていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会を設けたり、部会への参加を促して参加していただいている。同業者との交流も増えた。今後はさらに、ネットワークづくりに力を入れたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを作成し、情報の共有を行ってケアに努めている。変化していく細やかな要望には、対応はできていないところもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前(サービス導入前)に職員が面談し、聞き取りを行う。上記に基づき支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に応じ、介護保険外でのサービス利用も提案し、希望に沿うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の体調、介護度の状態に合わせて、職員が一方的に介護していることがないようにしているが、できている人とできていない人がいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の都合のつく時には、自宅へ帰りお茶を飲まれたり、そのまま外泊されたりしている。又、行事ごとに家族様も一緒に参加して下さっている。お越しいただきやすい雰囲気作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様のお知り合いの方も面会に来てくださったたり、地域の行事に職員と参加されている。同窓会等の付き添い支援もさせていだいた。	近所の喫茶店で馴染みの関係ができたり、併設のデイサービスを利用している知人との交流や同窓会に参加ができるように支援している。家族への年賀状を利用者と一緒に作成している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションを大切にし、時には言い合いになったりもするが、それもコミュニケーションではないかと考える。仕事を手伝っていただきながらお話しできる環境を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになった方の家族様と連絡を取りながら、時々グループへお越しいただいている。入居者様とお茶を飲みながらお話してくださったり、ボランティアとして行事に参加して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誰の為の支援かということを常に考えながら支援している。本人様の思いを大切に、お話を伺いながら職員間で情報を共有できるように努めている。	生活歴の把握や利用者により関わり「私が嬉しい事、やりたい事」を聞き定期的にアセスメントシートを更新してプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様から聞き出せないことは、ご家族様にお越しいただいた時にお聴きするように努めた。アセスメントシートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人に合ったペースでお過ごしいただいている。その日の体調、気分に合わせてお過ごしいただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合い、プランに反映させている。急を要する時に職員が揃わないこともあり、伝えていくのが難しかったことはある。	利用者や家族からの要望や課題をあげ、関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。職員間で支援を共有する為に書式の改善に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有が上手く出来ず、何度か話し合った。その中で、記録が少なかったり、書式に工夫が必要で検討した。また、伝達方法も検討した。現在新たな方法で取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の変化に気づき、支援方法を話し合っている。統一されていないところがあるのが課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や施設、お店に出掛けて交流を図っている。地域資源については職員の中で把握出来ていないことも多いと思うので、地域資源を知ることが必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診か往診がよいのか家族様と相談し助言を行っている。受診時、家族様の同行もあるが、日常生活の様子や健康状態を主治医に伝え、信頼関係を築いている。急変や特変など早い段階で主治医に伝え指示をいただいている。	入居前からのかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。受診時、日頃の様子を伝え緊急時の相談をしたり看取りの協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の様子や健康状態での気づいたこと、すぐに看護職に報告あり。早目の受診対応や職員が情報を共有できる様に申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合、施設での生活の様子、ADLなどきちんと病院看護師に伝えている。面会時に看護師に状態を聞いたり、定期的に病院相談員と情報交換を行い、退院前カンファレンスをお願いする。かかりつけ医に紹介状を依頼する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様にとって何が一番よいのか家族様と話し合い、主治医から説明を受け方針を決める。家族様にも協力をお願いし、主治医にお話しに行っていた。居室ではなく、皆様がおられる場所で見たり、耳で聞いたり寂しくない様に無理をせず、体調に合わせて過ごしていただくようにチームで取り組んでいる。	利用者、家族の思いを確認し、かかりつけ医と話し合い利用者が望む支援に取り組んでいる。利用者の気持ちを尊重しホールにベッドを置き過ごしてもらうこともある。職員は看取りの経験もあり主治医と情報の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていないが、夜間の急変時対応なども会議で話し合ったり、看護職、管理者で指示を出したり救急対応も行っている。姿が見られない時の捜索については警察の協力を得て訓練を行ったこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。緊急連絡網もあるので、連絡があれば可能な限り動ける体制である。	年2回の防災訓練や防災委員会による勉強会で消火器の位置や緊急時の連絡方法など確認し日頃から意識できるように取り組んでいる。先日の地震の時、すぐ家族に「利用者の安否」をメールで知らせた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇目標を基にホールに出た時は各職員が入居者様に声かけと見守りを行い、尊厳を守った言葉かけを心がけている。	定期的に接遇の勉強をしたり、接遇委員会があり接遇目標や標語を掲示している。利用者は人生の先輩であり、目線や言葉かけなど尊重した対応をするように職員間で話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の気持ちを尊重し、困られていることや「何が食べたいか」などの気持ちを大切に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ「おやつ時間」にお話を聴き、カラオケを聞いたり、歌ったりしながら、職員が多忙にならないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の着替えの時に、その日の天候、季節にあった身だしなみに配慮して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや料理の盛り付けと一緒に準備していただいたりしている。料理も本人様に喜んでいただけるように提供している。片付けもすすんで手伝ってくださっている。	下ごしらえや盛り付けなど力を活かしながら一緒にしている。食事中は味付けや食材の話をしたり好みを聞き取りいれている。畑で収穫した野菜を使ったり、主食はパン、おにぎりなど希望に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕食と10時、15時のおやつ時間に水分量が摂れているか、摂取量の記録をしている。食事も同様に記録をしている。少なければ、随時声かけをさせていただいたり、飲みやすいものに工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後に、一人一人対応している。本人様でできる方にはご自分で取り組んでいただき、お一人で難しい方にはお手伝いさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方は、自分でトイレへ行っていただき、間に合わなかった際の有無は、都度確認をしている。介助の必要な方は、必要時に誘導を行いトイレにて排泄をしていただいている。	利用者の病状に合わせた声掛けや対応をし、トイレで排泄ができるように支援している。排泄の失敗時、利用者の羞恥心を尊重し声掛けの工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では、メニューに野菜を多く取り入れたり朝食時には、ヨーグルトを提供している。個々に排便チェックをして服薬にてコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方全員が片寄ることなく入浴していただいている。嫌がられることもあるので、声かけやお誘いの時間をおいて工夫している。できるだけ今までの生活スタイルで入浴していただけるように、夕方から夜に近い時間で行えるように取り組んでいる。	今までの生活に近づけ夕方に入浴している。気の向かない人には声掛けを工夫したり日にちを変えるなどしている。湯船の温度や湯につかる時間など利用者の習慣や好みを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩面では、昼食後1時間程度、横になって休んでいただいている。夜間は皆様よく寝られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が皆様の服薬を把握し、食後に飲んでいただく前に、複数の目で確認させていただいている。変化があった際には看護師に報告し、担当医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃より、その方にあつた役割を持って取り組んでいただいている。職員も一緒に行っている。気分転換としては、外へ散歩に行ったり、カラオケや体操等で体を動かされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	「買い物に出たい」と希望があれば、近所のお店に行き、職員と出掛けられている。ドライブに出掛けたり、お茶を飲み、近所の喫茶に出掛けたりしている。	希望に合わせ喫茶店やドライブに行くなど支援に努めている。庭で花や野菜を育てたり遊歩道を散歩するなど外気浴を楽しんでいる。地域の名所や外食に出かけたり、家に帰りお茶を飲んだり外泊をするなど家族の協力を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金と身の回りの物や、好きな物の購入に使っておられる。家族様の了解の下管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など、毎年書いてご家族様とのコミュニケーションができています。毎月のご様子を居室担当者が記載し手紙の形での支援ができています。電話は職員がかけて、代わってお話しされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場であれば、居室、食堂に加湿器、湯温計を設置し、換気に注意をしています。お花や装飾が季節にあったものを取り入れている。	日頃の様子がわかる写真や作品を飾っている。ホールの所々にソファーや椅子が設置してあり利用者は好みの場所で寛げるように環境の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好まれる場所にご案内したり、落ち着かれる場所(ソファーやこたつ)を準備して、居心地のよい場所となるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等は季節に応じ、家族様に準備していただいたり、了解を得て購入させていただいている。	利用者や家族に使い慣れたものなど持参してもらおうように伝えている。テレビや椅子、家族写真や誕生日の寄せ書き、ぬいぐるみなど一人ひとりが居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち座りの際にも、身体能力を活かせる介助を行っている。ご本人様の協力を得られる声かけもできている。		